学力向上推進拠点校指定事業（第Ⅱ期）2年次リーフレット　築上町立椎田中学校

校　　長　夕田　耕作
学力向上推進担当　髙木　理克　電話　0930（56）0129

授業づくり

■ **これまでの取組における課題**
○「椎田中授業スタンダード」の共通理解、共通実践が不十分である。
○ 根拠を明確にして自分の考えを述べたり、説明したりする力を育成する学習が不十分である。

【課題解決に向けた取組テーマ】
～根拠を明確にした「書く活動」を学習過程に位置付けた授業づくり～

指導の実際（以下の取組が効果的だった!!）

≪取組1≫学習過程における書く時間の確保

◇ 1単位時間の学習過程に、学びのユニバーサルデザインの視点を取り入れた共通実践事項を位置付けた「椎田中授業スタンダード」を活用して授業改善に取り組んだ。また、展開段階に「書く活動」を位置付け、「考える時間（個人思考）」、「話し合う時間（交流）」、「まとめる時間（個人再思考）」を設定するとともに、試行錯誤した内容を表現する時間を確保して授業づくりに取り組んだ。

■「書く活動」のポイント
○「考える時間」、「話し合う時間」、「まとめる時間」を確保する。
→考え方のモデル（主張、根拠、理由づけ）に基づき、書かせる。
○表現の仕方は多様な方法を提示し、生徒が選べるようにする。
○机間指導で言葉かけを行う。
（賞賛やヒント、つまずきを次に活かすことができるような言葉かけ等）

【「書く活動」のポイント】

≪取組2≫調査問題等の活用と「問いの工夫」に焦点をあてた授業づくり

◇ 生徒に身に付けさせたい力が明確に示されている全国学力調査等の問題を活用した授業づくりに取り組んだ。具体的には、調査問題等を、導入・展開・まとめのどこで活用するのか、どのように活用するのか、などの活用方法を「調査問題等の活用パターン」に示す3つの型に合わせて工夫したり、why、whichを基本の問い方とした「問いの工夫」を行ったりして、全教科で根拠を明確にした「書く活動」の充実を図った。

「Ⅰ型」：調査問題等を、導入・展開場面において、自分の考えを深める問題として活用する。
「Ⅱ型」：調査問題等を、まとめの場面において、評価問題として活用する。
「Ⅲ型」：調査問題等を、単元末や定期考査等において、単元評価問題として活用する。

【調査問題等の活用パターン】

（取組1、2の成果）
○ ゴール像を明確にした授業づくりにつなげることができた。また、生徒の考えを深めさせる問いを考えることができた。

≪取組3≫協議会における授業観察シートの活用

◇ 「椎田中授業スタンダード」に沿った「授業観察シート」を作成した。授業参観の際、課題となっている評価項目を重点評価項目に設定し、課題を意識した日常的な授業改善に取り組んだ。

（取組3の成果）
○ 重点評価項目を設定したことで、協議の視点が明確となり、活発な協議を行うことができた。

1	導入	「めあて」に結びつく活動や発問・指示・説明があった。
2	導入	生徒の課題意識を高める「めあて」の提示があった。 ※内容＋方法＋活動等がわかる「めあて」
3	展開	思考を働かせるための資料・教材は適切であった。 ※類似問題、写真、統計資料、新聞記事など
4	展開	UDLの視点に基づき、個に応じた適切な資料・教材を準備している。 ※学習プリント、ヒントカード、学習形態など
5	展開	活動に適した時間配分や学習形態の工夫があった。
6	展開	課題に対して「個人思考」を通して自力解決している。 ※主体的に根拠ある自分の考えをもち、「書く（記述）」
7	展開	課題に対して「対話的活動」の場があった。 ※自他の考えを発表・交流
8	まとめ	学習内容を確かめさせる（振り返らせる・定着させる）活動を行った。 ※「虎の巻」の活用、振り返りの記述など
9	まとめ	「めあて」に応じた「まとめ」を行った。

【授業観察シートの評価項目】

組織づくり

■ **これまでの取組における課題**
○ 検証改善サイクルが浸透しておらず、組織的な取組になっていない。
○ 研究推進体制の役割分担が不明確である。

【課題解決に向けた取組テーマ】
～「授業づくり」を支える検証改善サイクルの確立～

取組の実際（以下の取組が効果的だった!!）

≪取組1≫学力向上プランに基づいた「検証改善ロードマップ」の作成

◇ 学力向上プランの取組を組織的に推進していくために、右のような検証改善ロードマップを作成した。取組の内容、時期をまとめるとともに、担当者を明記し、確実な実施につなげた。

【検証改善ロードマップ】

（取組1の成果）
○ 各担当者との連携を図り、進捗状況を確認しながら研究を推進することができた。また、役割が明確となり、当事者意識が高まった。

≪取組2≫異教科グループによる相互授業参観

◇ 全教師を3つのグループに分け、「授業観察シート」を活用し、相互授業参観を実施した。グループは、ミドルリーダーの担当教科や経験年数などを考慮してOJTが充実するように構成した。

○取組強化月間を設定し、1人1回の公開授業
○ミドルリーダーをグループリーダーとし、人数や年齢構成などを考慮した3グループを構成

グループA	グループB	グループC
国語 社会 保体	数学 家庭	理科 英語 音楽
学力向上コーディネーター	研究主任	指導方法工夫改善担当

【異教科グループ構成図】

（取組2の成果）
○ 同教科では見えない異教科からの指導内容や指導方法等の指摘が授業改善につながり、学校全体で組織的に取り組むことの大切さを実感することができた。

■授業づくりの取組における課題（●）、及び次年度の方向性（◇）
● 「めあて」に対応した「まとめ」の位置付け、意図的な「振り返り」の実践が不十分である。
● 「問いの工夫」について、各教科の実践は積み上げられているものの、根拠を明確にして書かせるための「問いづくりのポイント」を明らかにする必要がある。
◇ 課題を焦点化した校内研修を実施し、「めあて」「まとめ」「振り返り」の活動等の質的向上を図る。

■組織づくりの取組における課題（●）、及び次年度の方向性（◇）
● 部会の設定が不十分なため、担当者任せになっている。
● 若年層、ミドル層、ベテラン層によって当事者意識に差がある。
◇ ミドルリーダーを中心としたより細分化・詳細化した「検証改善ロードマップ」を作成し、各部会を中心にして教師の横のつながりの強化を図る。